

教区信徒会 信心研修会「かみひと神人の集い」

7月28日 名古屋港湾会館 会場33名、オンライン40名

講師 「神様が求められるもの」

講師 辻井篤生師(元金光教東京学生寮寮監/和歌山県勝浦教会長)



られるのかを求めた。

講師には、元金光教東京学生寮寮監の辻井篤生師(和歌山・勝浦教会長)を迎えて、約三十年間、寮監としての御用と、寮で月毎に仕える月例祭の教話をとおして、金光教人として大切にしたいことを寮生に伝えてきた内容を語った。

そして、次の「おかげさま」「お互いさま」「お先にどうぞ」の三つの「お」の精神と「神様のものさし」を持つことが大切であると話した。



「おかげさま」

東日本大震災後に寮生がボランティア活動をした際、「地震の前の暮らしは夢のような生活でした」との被災者の言葉に、自分たちの生活が当たり前ではないことを身にしみてわからされた。日頃からの「おかげさま」という思いが大切である。

「お互いさま」

家族や寮生の心の病の経験から、当たり前のことを当たり前と思うと、そこに感謝の心は生まれえない、それどころか不平、不満が生まれ、自分だけが正しいと人を軽く見て責めてしまう。そうではなくて、100%正しい完全な人はなく、お互い弱い人間であり、この弱さを認め合えるからこそ、「お互いさま」の関係で「足りない所を責め合うのではなく、足りない所は足し合う」ことができる。

東海教区信徒会では、実践目標を「神のおかげにめざめ、お礼と喜びの生活を進める」と掲げ、教团的視野に基づく信心を身につけつつ、教区活動推進の上にお役に立つことを願いとして、名古屋センターと連携して諸活動を進めている。

七月二十八日に、信心研修会「神人の集い」を名古屋港湾会館にて開催し、「神人の道」がどのように生活に現せ

「お先にございませう」

エレベーターで先を譲るのは簡単だが、沈む船で救助船を前にして先を譲るのはなかなかできない。ただこれは、その時にそのように言えるかを問うているのではなく、生き方の問題で、人生を悔いなく、やり残したことはない生き方をしていれば、「お先にどうぞ」と言えるはずである。今、この瞬間を丁寧に生きているかどうかが大切である。

「神様のものさし」

目盛りのある「人間のものさし」とは違い、「神様のものさし」は目盛りがないので比べることはできない。「神様のものさし」ですべての存在を大切にすることが大事である。

まとめとして、そもそも人間は一人  
で生きていけない存在であり、当たり  
前のことが当たり前ではなく、天地の

恵みにお世話になりどおしの人間の姿  
を知り、共に支え合い、共に育ってい  
くことが、真に自立した自由な人間で  
あり、それが金光教の信心だと思っ  
それを願いながら、寮生たちはずっと  
伝えてきたと、講話を締めくくった。

その後、参加者には、講話を聞いて  
の感想と質問のアンケートを取り、講  
師は、一つひとつの質問に答えた。

